

土曜市を盛り上げよう！

—女性部の役割—

広田湾漁業協同組合女性部気仙支部
菅野 千代

1. 地域の概要

私たちの住む陸前高田市は岩手県沿岸の最南端に位置している。そのため、私たちが漁業活動を行っている広田湾は陸前高田市と宮城県気仙沼市にまたがっている。

海岸線はリアス式海岸となっており、複雑に入り組んだ地形によって、湾内は静穏で良好な養殖漁場となっている。また、沖は親潮と黒潮がぶつかり合う潮目で、世界でも有数の漁場が形成されている。

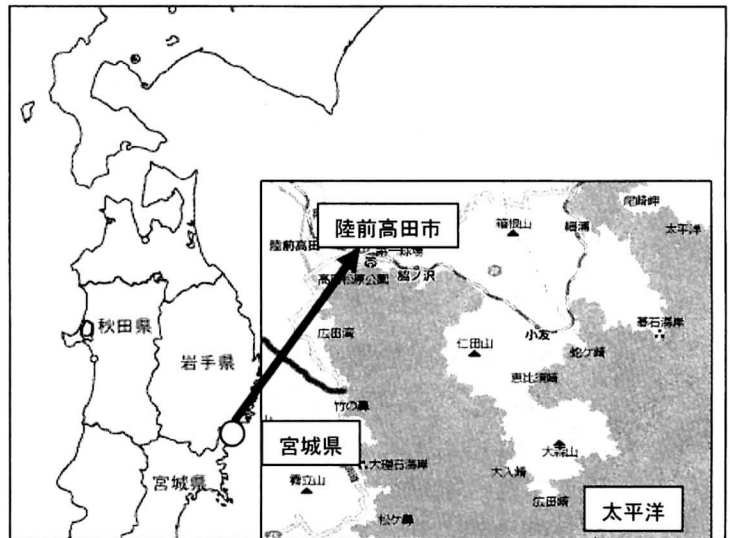


図1 岩手県陸前高田市の位置

2. 漁業の概要

広田湾漁業協同組合は平成16年4月に広田、小友、米崎、高田および気仙町漁協が合併して誕生し、現在は、広田、小友、米崎および気仙支所の4支所から成っている。

広田湾漁協気仙支所は、正組合員数174名、准組合員数228名で構成されており、平成19年度販売事業取扱量は1,788トン、販売額は3億9,800万円となっている。主な漁業は、ワカメ、コンブおよびカキ類の養殖で、販売額の約6割を占めている。

旧気仙町漁協では以前、大型の旋網漁業が盛んに行われていたが、国際的な漁業規制、輸入水産物の増大による魚価安などにより、経営不振に陥り、平成5年までに相次いで倒産し、多額の欠損金を抱えた。

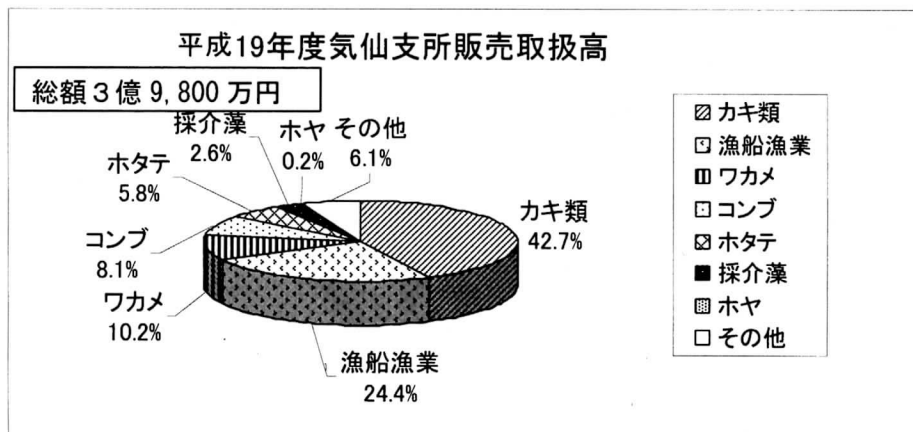


図2 平成19年度における気仙支所の取扱販売額

3. 研究グループの組織と運営

私たち女性部は昭和35年8月に、気仙町漁協婦人部として設立され、一時期は350名前後いた部員も、現在では150名まで減少している。さらに、平均年齢も60才を超え高齢化が進んでいる。

私たちの活動は、本所企画指導課が中心となって行う4支部合同の活動と支部単位で行う活動がある。4支部合同で行う主な活動には「陸前高田市産業祭り」での魚食普及活動がある。この市産業祭りでは、来場者に地元特産のカキ汁やサケのすり身汁などを1日600～700人の方へ提供している(図3)。



図3 市産業祭りでの活動の様子

また、気仙支部単位の活動では、毎月の貯金の集金、わかしお石鹸の普及販売、魚食普及活動、海浜清掃、そして、今回報告する「土曜日」の支援を行っている。

4. 研究・実践活動取組課題選定の動機

当地区では、旧気仙町漁協の時代から産地市場を運営している。しかし、週末は卸売市場で価格が安くなるため、魚価が安くなったり、魚が捌ききれないことが多々あった。また、旋網漁業の相次ぐ倒産により、漁協経営が非常に厳しくなったこともあり、魚価の安くなる週末に、魚価を少しでも高く安定させ、収益を向上させることを目的に、市場を一般の方に開放する「土曜日」を開催することになった。

この「土曜日」は「まじめな漁師のまじめな市」というキャッチフレーズで、毎年5月～12月までの毎週土曜日、朝8時(冬期は8時30分)から開催している。

この「土曜日」の開催には、「少しでも高く、少しでも多い現金収入を!」といったかなり切実な思いがあり、その思いを汲んだ当時の女性部は「今こそ協力して組合を支えなければ!」と結束し、土曜日への協力を決定した。

5. 実践活動状況及び成果

(1) 積極的な土曜市の利用

市場を一般開放したとしても、利用客が少なければ魚介類が売れ残り、「土曜日」の開催目的を達成することはできない。また、何よりも新鮮な魚介類を無駄にすることは水産業に携わる私たちとして許してはならない。さらに、お客さんが少なければ、市が活気づかず、ますます、お客さんから敬遠されてしまう可能性が高い。

そこで、「土曜日」の支援の第一として、女性部員全員で積極的に「土曜日」を利用することにした。

私たちが積極的に「土曜日」を利用することにより、土曜日に活気がもたらされ、今では、「土曜日」の開催時間の前には、沢山のお客さんが集まるようになり、開催後30分と経たないうちに準備した魚介類は売り切れるようになった(図4)。



図4 土曜市の様子

(2) 「浜のかあちゃんの手料理試食会」の実施

「土曜日」に来ていただいたお客さんに感謝の意味を込めて、年3～4回、「浜のかあちゃんの手料理試食会」という名前で、旬の魚介類を用いた手料理をお年寄りから子供までみんなに食べてもらっている（図5）。



図5 「浜のかあちゃんの手料理試食会」の様子

また、通常の試食会以外にも、市内ホテルからの依頼を受け、埼玉県秩父市の旅行グループ「萩の会」のご一行様 140名に朝食を提供したこともある。

平成19年度には、岩手朝日テレビ局が企画した「IAT学びの旅ツアー」や「海の幸満喫日帰りバスツアー」などのバスツアーの工程に「土曜日」が組み込まれ、ツアーに参加された盛岡市周辺や奥州市周辺のお客様に「土曜日」で買い物を楽しんで頂き、その後、私達が準備した新鮮な魚介類を用いた朝食を提供した。



図6 「IAT学びの旅ツアー」の様子

中には、朝食で出した料理の作り方を聞かれる方もあり、内陸部の人への魚食普及の一環にもつながっていると感じている（図6）。

(3) 土曜日への加工品等の出品

ワカメ養殖やコンブ養殖で価格が低く、捨てられていた中芯や元葉などを使った漬物や佃煮をパック詰めし、作り方のパンフレットを添えて、女性部部員自ら販売している（図7）。その他に、私たち女性部員が家庭で作っている農作物や花などを出品して「土曜日」に華を添えたり、手作りの小麦餅やカボチャ餅などを配布し「海難遺児募金」への協力も呼びかけている。

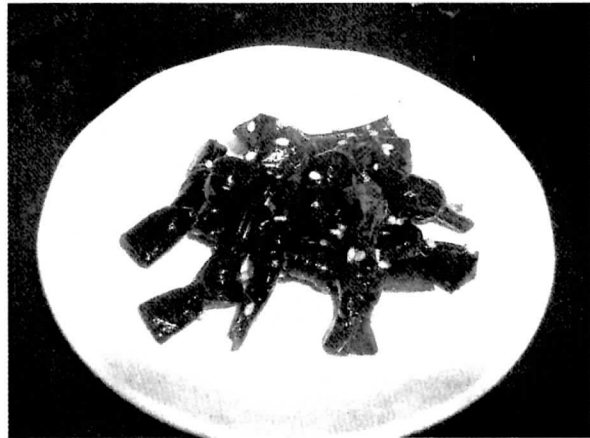


図7 コンブの元葉を使った佃煮

(4) 地元中学生への魚食普及

地元気仙中学校の生徒は地域産業を学習するため、「土曜日」に参加・協力している。毎週土曜日の朝7時に集合し、商品の袋詰めや陳列、さらには、売り子などを行ってもらっている（図8）。この時に、魚介類の名前などを教えている。

また、私たちが「浜のかあちゃんの手料理試食会」を行う時は、女子中学生に魚料理やその作り方、味付けなど私たちが親から教えてもらったことを伝えている（図9）。



図8 売り子として活躍する中学生



図9 女子中学生への料理指導

(5) 活動のまとめ

私達の活動による最大の成果は、女性部員が積極的に「土曜日」に参加することによって、「土曜日」に活気がもたらされていることであると考えている。私たちの行っている「浜のかあちゃん試食会」も「土曜日」の活性化に一役買っていると考えている。

また、コンブ元葉の佃煮などの加工品の出品は、低利用もしくは未利用であった養殖生産物の付加価値向上につながっていると考えている。加工品の販売額は、11月末現在で約16万1,000円、粗利益で約8万7,000円とまだまだ少額ではあるが、女性部活動費用の一部に役立っている。そして、加工品の製造作業は女性部員が共同で行っており、部員間の意思疎通や交流に大いに役立っている。

さらに、「土曜日」という機会を用い、地元中学生に魚食文化を伝えることができていると考えている。

6. 波及効果

広田湾漁協気仙支所で運営している「土曜日」は、漁協だけではなく、私たち女性部や漁業者、中学生などの地元住民、そして市水産課が一体となって開催されている。その結果、「土曜日」の売上金額は、開設当時約500万円であったものが平成19年度にはおよそ1,200万円まで増加している（図10）。また、「土曜日」に来て下さるお客さんは陸前高田市内だけでなく、近隣の大船渡市や宮城県気仙沼市、遠方は内陸にある一関市、奥州市などからも来て頂けるようになっている。さらに、多くのお客さんの来場によって、「土曜日」は活気あふれる市となっており、バスツアーの行程に組み込まれるほどに至っている。

これらの活動による「土曜日」の活性化は、魚価の安定と収入の増加につながり、地域水産業を活性化するだけでなく、地域の活性化にも貢献していると考えている。

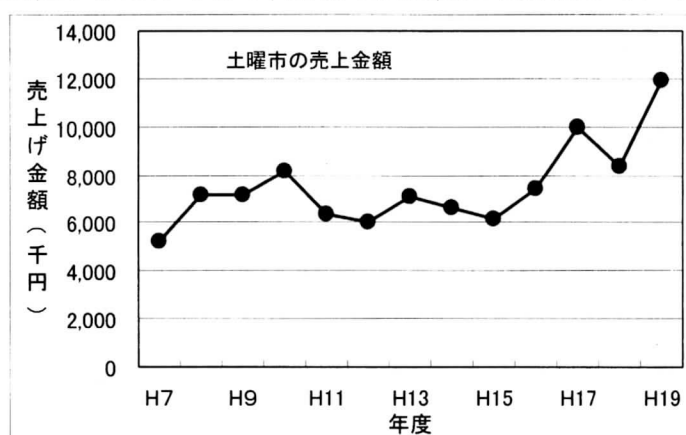


図10 土曜市の売上金額の推移

7. 今後の課題や計画

私たち女性部は、今後も、地域水産業の活性化に欠かせない「土曜日」を一丸となって支援していくことにしている。また、将来的には支援だけではなく「土曜日」の企画・運営にも参加していきたいと考えている。

さらに、コンブの元葉のように、価格が安く捨てられているような生産物の有効利用を進めるため、加工品を製造し販売していきたいと考えている。

しかし、現状として、私たち女性部は高齢化が進み、部員数も減少している。そのような状況の中で活動を続けていくためには、多くの部員が楽しく活動できるような環境づくりが必要であると考えている。そのためにも、現在行っている加工品製造の共同作業による部員間の交流をより深めるとともに、様々な加工品を販売し、女性部の活動資金にあて、活動の活性化につなげていきたいと考えている。

将来、女性部活動をもっともっと活性化させていき、「浜のかあちゃん試食会」を「浜のかあちゃん食堂」へ発展できたらなあ～と思っている。